



エコ・ファーストの約束案

～環境先進企業としての地球環境保全の取組～

環境大臣 西村 明宏 殿

2023年4月5日
代表取締役社長 カリン・ドラガン

コカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングス株式会社は、環境や日常生活、私たちを取り巻く地域社会などの各場面で日本が直面する重要な課題に対し、ビジネスを通して変化をもたらし、さわやかさを届けながら、未来を共創していくことに責任を持って取り組みます

1.「容器の2030年ビジョン」に基づき設計・回収・パートナーの3本柱で「World Without Waste (廃棄物ゼロ社会)」を目指します

- ・2030年までに、「ボトルtoボトル」の推進等により全てのPETボトルを100%サステナブル素材に切り替えます
- ・2030年までに、「ボナクア」(水の給水サービス)等を通してリユース容器の市場展開の拡大を目指します
- ・2030年までに、日本国内で販売した自社製品と同等量のPETボトルを回収することを目指します
- ・2030年までに、2004年比で製品1本あたりのPET樹脂の使用量35%削減を目指します
- ・パートナーと連携し、3分別リサイクルBOXを設置する等使用済みPETボトルの最適な分別回収の啓発を行います

2.サプライチェーン全体でのGHG排出量削減施策に取り組みカーボンニュートラルを目指します

- ・2030年までに、2015年比でGHG排出量をScope1、2で50%、Scope3で30%削減。2050年までにGHG排出量ゼロを目指します
- ・ケミカルリサイクルによる再生PET原料を使用したPETボトルの製品化及びリサイクルラベルの共同開発や、一般的な缶と比較してCO2を25%削減できる「Can to Can」の推進等によりGHG排出量削減を目指します
- ・TCFDをはじめとした気候変動イニシアティブや、脱炭素化を目指し創設されたイニシアティブへの賛同・参加に基づき、気候変動への取り組みを強化します
- ・一般的なPETボトルと比較してCO2を1本あたり60%削減できる「ボトルtoボトル」の推進で脱炭素化に貢献します
- ・日中の消費電力を最大95%削減できるピークシフト自販機導入等によりGHG排出量削減に貢献します

3.ステークホルダーへの環境教育を通して社会課題解決に貢献します

- ・SDGsセミナー開催等を通じて、地域住民への環境理解促進に貢献します
- ・国際海岸クリーンアップや地域の清掃活動等を通じて社員のボランティア参加率10%を目指します
- ・定期的な環境に関する社員向け勉強会やe-learningの実施で、社員の環境意識醸成・行動支援に取り組みます

4.かけがえのない「水」を使用し、ビジネスを行う企業としての水資源保護、および生物多様性、生態系の保全を推進します

- ・2025年までに、工場の水源域の保全に注力し、水源涵養率200%以上を維持します
- ・2030年までに、2015年比で製品1Lを製造する際に使用する水を30%削減します
- ・コカ・コーラ「森に学ぼう」プロジェクト等の取り組みを通じて生物多様性の保全に努め、持続可能な自然資源の活用を目指します

コカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングス株式会社は、上記の取り組みの進捗状況を確認し、その結果をホームページなどで定期的に公表するとともに、環境省へ報告します。